

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書（教務・進路）

I 自己評価

1 学校教育目標	社会のリーダーをめざすにふさわしい人間を育てる。 (1) 学問を尊ぶ風気を培い、高い学力を身に付けさせる。 (2) 文化を尊重し、部活動や学校行事等への主体的な取組を通して、豊かな人間性を身に付けさせる。 (3) 生活規律を確立させる。
2 現状の分析	○落ち着いた態度で授業を受けることができ、学校での授業を大切にしている生徒が多い。 ○納得できる進路選択が行えるように、提供された進路情報を的確に活用している生徒が増加してきている。 ▲自ら設定した課題に対して、情報収集し、発表資料を作成することはできるが、課題の探究方法や解決策が提示できる生徒が少ない。 ▲自ら描いた将来像はあるが、実現に結びつけるための自主的・主体的な学習行動に移せない生徒が多い。
3 学校の抱える課題	・公開授業、ICTの職員研修会の意義を全職員が意識し、生徒が主体的に活動でき、それが学習の理解に繋がる授業改善が必要である。 ・正しい進路情報だけを的確に伝え、様々な情報から自らにとって価値のある情報を生徒自身が見極められるような指導が必要である。
4 今年度の具体的な重点目標	◇思考力・判断力・表現力及び自ら主体的に学ぶ意欲、学ぶことの意義を理解させ、教師一人一人が積極的に授業改善に取り組む。 ◇一人一人の生徒が自己を正しく理解し、自らの在り方生き方を考え、主体的に進路を選択決定できるよう指導に努める。

年 度 目 標		年 度 末 (途中) 評 価				
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
学習指導	①公開授業旬間の実施における 公開授業の推進とICTに関する 職員研修会の実施	①公開授業の実施率、生徒・保 護者アンケートの項目別集 計	①公開授業実施率は100%であったが、生徒・保 護者アンケートは、昨年度より肯定的評価が 減少した。タブレット導入後、学習支援ソフ ト「Meta Moji」の職員研修会を実施した。	B	○オンラインの積極的な活用と、 ICTの職員研修会が実施できた。 ▲ICTを活用した授業実践の推進 及び学習理解度の向上を図る。	A
	②チャレンジ講座等補習授業の 充実や多目的教室(自習室)の 利用	②生徒及び保護者を対象とす るアンケートの項目別集計	②アンケートの生徒の進路指導の項目について 数値が昨年度より向上した。		A	
進路指導	①ホールルーム活動と総合的な学習 (探究)の時間を連動させた指導	①生徒及び保護者を対象とす るアンケートの項目別集計	①進路希望に応じた説明会等を効果的に実施し たので、生徒アンケートの進路情報などに ついて数値が昨年度より向上した。	A	○すべての生徒に対して、一人一 人の進路目標実現や個性を活か した将来設計へ向けた具体的 なアドバイス、指導を行うこと ができた。 ▲効果的で的確な進路指導を行 うには保護者との連携が不可欠 である。学校での指導に対する 保護者の信頼感を高めるため、 早期から進路情報に関する親 子の対話を深める援助を検討 していきたい。	
	②3年間を見通した進路シラバ スを含んだ進路の手引きの作 成	②保護者等を対象とする授業 アンケート及び卒業生を対 象とするアンケート結果	②進路のしおりに大学紹介(卒業生アンケート) を掲載し、進路目標達成に向けた具体的な道 筋を思い描けるように工夫した。	A		
	③望ましい進路実現のための懇 談等の積極的な実施	③生徒及び保護者を対象とす るアンケートの項目別集計	③オンラインによる定期的な学年集会や、外部 講師を招いての講演会を行うことでその時期 に応じた進路情報を伝達した結果、情報提供 についてのアンケートデータが向上した。	A		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年2月16日

12 来年度に向けての改善方策案

・コロナ禍で、計画どおりに進めることが困難ではあったが、ICT機器、オンライ
ン等の活用で工夫を加えながら、教育活動が実施できたことはよかった。
・SDGsに関する内容についても取組が進められたことは素晴らしい。
・休校時には、十分な進路情報の提供が難しかったようであるが、3年生それ
ぞれが目標に向かって、卒業を迎えられたことをうれしく思う。

・今後、再び授業が実施できない場合だけでなく、これまでの経験を踏まえ、通常時
にもICT機器、オンライン等を活用し、効果的な授業、学年集会等を実施していきたい。
・限られた時間の中で、さらなる職員研修を効率的に進める必要がある。

【別添2】（様式例1） **令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書（総務・生徒指導・教育相談・保健厚生）**

I 自己評価

岐阜県立大垣東高等学校

学校番号

23

1 学校教育目標	社会のリーダーをめざすにふさわしい人間を育てる。 (1) 学問を尊ぶ気風を培い、高い学力を身に付けさせる。 (2) 文化を尊重し、部活動や学校行事等への主体的な取組を通して、豊かな人間性を身に付けさせる。 (3) 生活規律を確立させる。
2 現状の分析	○生徒の学習意欲は比較的高く、学校行事や部活動などにも意欲的に参加する生徒が多い。 ▲温厚で真面目な生徒が多いが、自らが計画し、積極的に活動する生徒が少ないように思われる。
3 学校の抱える課題	・情報モラルなどの社会的な倫理観が欠如している生徒が少なからずいる。 ・交通ルールを遵守した自転車運転ができない生徒が存在し、交通事故が起こる原因にもなっている。 ・温厚で真面目であるが、元気よく気持ちの良い挨拶ができず、上手にコミュニケーションできない生徒がいる。
4 今年度の具体的な重点目標	◇家庭と学校の緊密な連携・協力により、生徒の教育効果の向上および福祉の増進を図る。 ◇信頼と愛情に基づく生徒理解の徹底を図り、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成をめざす。 ◇全職員による全生徒に対する相談活動を推進し、一人一人が生きがいを持ち、心豊かな学校生活を送れるように支援する。 ◇生徒に、健康と安全に対する意識の高揚を図り、たくましく生きるための知識と実践力を身に付けさせる。

年 度 目 標			年 度 末 (途中) 評 価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
生徒指導 育友会	①MS リーダーズや育友会役員とともに交通安全・挨拶運動の実施	①交通事故件数の増減	①MSLは毎水曜日、保護者には今年度は3回の運動協力をいただいたが、大幅な減少とはならなかった。	B	○育友会、MSLの挨拶交通安全運動によって、近年増加傾向にあった交通事故件数は、僅かではあるが減少させることができた。 ▲命に関わる大切な問題として、今後も粘り強く指導していく。	A B C
	②身だしなみ指導	②生徒及び保護者を対象とするアンケートの項目別集計	②アンケート項目の生徒指導の数値は、概ね例年と変わらない水準である。	B		
	③交通マナー・生活マナーの向上	③生徒・保護者アンケート	③継続的な啓発活動、指導を行い、僅かではあるが向上している。	A		
生徒指導 教育相談	①「いじめ・迷惑調査」の実施	①いじめの発見と事後指導	①年間5回の「迷惑・いじめ調査」を今年度からはWebで実施し、把握に努めている。	B	○「いじめ・迷惑調査」「SERAPLUS」「心のアンケート」の事後指導により、いじめの未然防止、即時対応や問題生徒の把握及び即時対応ができた。 ▲調査での完全な把握は困難であるが、調査方法を研究していく。	D
	②「SERAPLUS」「心のアンケート」の実施	②心身に問題が生じている生徒の把握と事後指導	②「SERAPLUS」を年1回「心のアンケート」を年12回実施し、心身に問題が生じている生徒の把握と、事後指導を実施した。	A		
	③人権教育の推進	③人権LHRの評価	③各学年、ホームルームで工夫ある取組をした。	B		
保健厚生	①「命を守る訓練」等の防災訓練による防災意識の向上	①訓練の参加態度及び避難完了までの時間	①「命を守る訓練」は実施できず	C	○「減災力テスト」の結果より、防災意識の向上が見られた。 ▲防災の活動として「シェイクアウト」「避難経路の確認」「防災アクション」を実施したが「命を守る訓練」職員の「救命救急講習」が実施できていない。	
	②非常変災時の生徒の状況把握	②非常変災時の予行演習結果	②「防災アクション」として「大垣市サードマップ」を作成・掲示	B		
	③健康診断の事後措置	③受信報告書の提出率の向上	③保健室の利用状況減少、感染症流行に伴い、初期のcaぜで自宅療養する傾向	B		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年2月16日

12 来年度に向けての改善方策案

・きめ細やかに指導がなされ、これからの人間社会にふさわしい力を育む教育活動が実施されている。
 ・高校周辺の交差点等で、登下校する生徒に危ない様子が時折見られる。一層の交通安全教育が望まれる。

・引き続き、新型コロナウイルス感染症防止対策を進めていく必要がある。
 ・交通安全については、今後も指導を継続していきたい。
 ・「命を守る訓練」、「救命救急講習」を実施する。

I 自己評価

岐阜県立大垣東高等学校

学校番号

23

1 学校教育目標	社会のリーダーをめざすにふさわしい人間を育てる。 (1) 学問を尊ぶ気風を培い、高い学力を身に付けさせる。 (2) 文化を尊重し、部活動や学校行事等への主体的な取組を通して、豊かな人間性を身に付けさせる。 (3) 生活規律を確立させる。
2 現状の分析	○学校行事、ボランティア活動に意欲的に参加している。 ▲リーダーを養成する機会が不足。（クラス独自のLHR時間を増やす）
3 学校の抱える課題	・大人しい生徒が多く、積極的にリーダーシップの取れる生徒が減少してきている。 ・学校行事に取り組む姿勢はとても良いが、行事を企画・立案・先導する力が乏しい生徒が少なくない。
4 今年度の具体的な重点目標	◇生徒の自主的、実践的活動の推進と帰属意識の高揚に努め、社会の一員として自主的、実践的な態度を育て自己を生かす能力を養う。 ◇科学的な思考力、創造力を社会に還元できるような豊かな人間性と実行力をもった生徒を育成する。

年 度 目 標		年 度 末 (途中) 評 価				
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
生徒会活動	①生徒会活動、学校行事等の自主 的な企画・運営	①生徒や職員から寄せられた 声	①球技大会以外、ほとんど行事が実施できな かったが、実施に向けて粘り強く取り組んだ。	B	○参加しているボランティア活動 は意欲的に参加している ▲生徒の視線で生徒の活動を 支える学校や職員の態勢を 整える。	A B C
	②リーダーの養成	②生徒や職員から寄せられた 声	②生徒のリーダーと教員とのコミュニケーションを積極的 に取り課題を共有し活動している。	B		
	③ボランティア活動などの地域 活動への積極的参加	③外部諸団体、学校関係者から 寄せられた声	③ほとんど実施できなかったが、校内募金のみ 実施できた。	B		
HR活動 部活動	①ホームルーム活動における集団生 活の適応力及び人間関係の醸成	①生徒及び保護者を対象とす るアンケートの項目別集計	①友人との良好な関係作りやコミュニケーションを図 る場として活用している。クラス単位の活動には積 極的に取り組んでいる。	B	○全国で上位以上の成果を収 める部（水球、華道）が出 た。 ▲より一層の部活動環境の整 備を図っていく。	D
	②集団で協力する態度の育成	②生徒及び保護者を対象とす るアンケートの項目別集計	②困難な環境の中でも、熱意をもち、かつ創意 工夫して部活動に取り組んでいる。	B		
理数科	①近隣の小学校へ実験等理科教育 活動の提供	①生徒及び小学生を対象とす るアンケート結果	①実施できなかった。	D	○理数分野への興味関心を高 めること、論理的に考え、 発表する能力を高めること ができた。	
	②課題研究への取組	②課題研究報告会の公開	②モチベーションの数を増やし、研究、発表の方法を 学びながら、探究活動を実施することができ た。	A		
	③適切な進路指導の選択を含めた 校外研修や専門的な講義の実施	③高大連携講座等の実施	③高大連携講座を通して、自然科学分野の研究 を知り、進路選択の参考にすることができた 。	B		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年2月16日

12 来年度に向けての改善方策案

<ul style="list-style-type: none"> ・「三密」を避けての活動は、困難であったと思うが、水球部の優勝、華道部の「花の甲子園」入賞など全国の舞台での成果は素晴らしい。 ・理数科の小学校への教育活動提供が実施できなかったことなどは残念であるが、状況が好転した際には、中学校との交流もさらに検討願いたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動においては日数、時間等に制約がある中で、練習方法の改善を進め、学業と両立できるよう実施していきたい。 ・オンラインの充実により、大学あるいは遠隔地との交流を進め、理数科の課題研究についても内容を拡充あるいは深化する可能性が広がった。
---	---